

訪問日：2017. 11.4 / エリア：香芝市

Good Job!センター香芝



回答者 森下 静香さん(Good Job!センター香芝 センター長)

活動の経緯

アートを仕事にするという目標があり、2007年からエイブルアート・カンパニーという事業をはじめ、障害のある人の絵やイラストなどをデザインとして活用してもらい、社会に発信してきました。障害のある人が描いたオリジナル作品というのは、日本ではまだまだ売れる環境は十分に整っていません。障害のある人のアートやデザインを使いたい企業にとっては、いくらするのか、どこに聞けばいいのかといった疑問があります。それを引き受け、また著作権など作者の権利を保障し、デザインをどこまで変えていいか等、本人の承諾をきちんと取ることを行なっています。また重度の障害のある人の中には、作品をたくさん生み出すことが難しい人もいます。そこで、デザインでアートを仕事にするというアイデアが生まれました。

Good Job! センター香芝は、2016年からスタートしました。全国の福祉施設や企業などで作られている障害のある人が関わる商品の取扱いもしており、流通も障害のある人が仕事として担っています。福祉制度としては、就労継続支援A型、B型、就労移行支援、生活介護の4つの事業を行なっています。

エイブルアート・カンパニーを始めた当初、デザイン利用のための依頼は紙媒体のものが多くかと思っておりましたが、地元の奈良に工場のある Tabio さんとの協働で、靴下にデザインを使用してもらいました。そこから、より生活に身近なものへとということで、アパレルとの協働も進んできました。

それと並行して、Good Job! プロジェクトを実施しています。このセンターで作られたものに限らず、今、全国で地場産業や伝統産業と障害のある人の仕事づくりが進んでいますが、そうした事例を展覧会で紹介しています。

協働パートナーについて

この施設を建てられたのは、あるご夫婦から障害者福祉発展のために使ってほしいと土地の寄付を受けたためです。日本財団からは、通所してくるメンバー以外にも、この場でいろいろな実験をして発信していくことに共感をいただき助成を、また、香芝市からは雇用をこの地域で作っていく地域創生の視点から支援をもらいました。設計の o+h さんには、スタッフから目が届くところに、ひとりで落ち着けるスペースを作りながら、開放感のある壁のない空間をデザインしてもらいました。

仕事の依頼は、今のところ、営業というより出会いから生まれることが多いです。依頼を受けて作ることもあります(例えば張り子、ホテルのキーホルダー、記念グッズなど)。流通の仕事を担当するのも障害のあるメンバーです。商品の入荷から出荷まで色々な仕事があり、パソコンでの商品管理もあれば、オンラインショップに掲載する商品の撮影も、販売に行くこともあります。カフェの仕事もやっています。Good Job!センターでは、地域のお母さんからふらっと来る人まで、ボランティアさんも多く、一緒に混ざって作業している感じがあります。

その中で新しい仕事をつくることを目指しています。例えば、春日神社の境内の杉を使って何かできないかという依頼をいただきましたが、メンバーとスタッフで現場を見に行くこともあります。地域の課題と結びついていくことと、デザインとして活用していくこと、さらにレーザーカッターや3Dプリンターなど新しい技術を取り入れ、メンバーの手仕事を最大限生かすことも試みています。そこから可能性を広げていきたいと思えます。

2012年からたんぼの家で始まった「Good Job!プロジェクト」を核に、障害のある人と共に社会に多様な働き方、新しい仕事を作り出すために設立。障害のある人の表現とデザインの組み合わせ、企業からNPOや行政まで異分野をつなぐプラットフォーム、個々の可能性を生かし障害のある人の主体的な役割を果たせる仕組みの3点を軸とした事業を実施している。

〒639-0231
奈良県香芝市下田西2丁目8-1
TEL: 0745-44-8229
FAX: 0745-44-8230

地域との関わり

地域の特徴として、香芝市は大阪に隣接したベッドタウンということもあり、若い世帯が多い地域です。Good Job!センターは新しい施設ということもあり、ここに来るのは、地域の若い人が多くなります。ここを出て、企業に就職するかもしれないという人もいます。

養護学校にいる間は、本当にたくさんの職業実習をします。親や先生の願いとして、企業に就職してほしいということもあります。ただ、就職できても、継続するのは難しいという声も聞くので、ここでは仕事の技術だけでなく、コミュニケーションも身に付けてほしいと思っています。また、企業と福祉がもっと交流する機会もつくればと思います。ですので、仕事の時間だけでなく生涯教育的な時間も取っています。その時間に時給は発生しませんが、ダンスなどでコミュニケーションを、新聞を読む会では、社会で起こっていることを話しできるようにするなど、身に付けてもらいたいと思っています。

障害と名づけられていなくても家に引きこもったり、生きづら

さを感じたりしている人もいます。そういう人が、このセンターでアートやデザインの取組をやっているから、来てみようかなと思ってくれることがあります。仕事には行けないけど、絵が好きだし、来てみようかなというふうに。アートを仕事にということを目指していますが、それに加えて、アートがあるから次の仕事に行けるといことが、次のステップになるかもしれないと考えています。



工房でメンバーが製作する商品など



Good Job! センター香芝